

Acute inflammation in the uterine isthmus coincides with postpartum acute myometritis in the uterine body involving refractory postpartum hemorrhage of unknown etiology after cesarean delivery

メタデータ	言語: jpn 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2020-10-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Jain, Divyanu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003754

論文審査の結果の要旨

母体死亡の主要な原因である分娩後大量出血をきたす疾患の中で、子宮弛緩が最も多い。本学産婦人科学講座の研究グループは、原因不明の難治性子宮弛緩の病態として、postpartum acute myometritis (PAM) という新しい概念を提唱した。PAM は、肥満細胞と補体の活性化、間質の浮腫、多数のマクロファージと好中球浸潤などのアナフィラキシー様反応と炎症を特徴とする。帝王切開中に羊水に直接曝される可能性のある峡部（子宮体部と頸部の間に存在する組織）が、難治性子宮弛緩の病態にどれだけ関与するかは不明であった。そこで、申請者らは、帝王切開後に原因不明の難治性子宮弛緩が認められた PAM 症例の峡部を組織学的に検討した。

2011年から2017年にかけて日本羊水塞栓症登録プログラムに登録された症例中、帝王切開中の大量出血に対する治療のための子宮摘出術によって摘出された子宮を組織学的に検討し、体部に PAM が認められた 5 症例を選択した。また、待機的帝王切開の 15 症例から、対照として子宮体部と峡部組織を得た。そして、肥満細胞のトリプターゼ、アナフィラトキシン受容体 C5aR、マクロファージの CD68、好中球の好中球エラスターゼ、T 細胞の CD3 に対する抗体で免疫染色を行った。陽性細胞数をデジタル画像でカウントし、統計解析を行った。

PAM が体部に認められた子宮の峡部におけるトリプターゼ陽性の脱顆粒性マスト細胞、エラスターゼ陽性好中球、CD68 陽性マクロファージ、および C5aR 陽性細胞の数は、PAM なしの子宮の峡部におけるそれらよりも有意に多かった。CD3 は両方のグループで陰性であった。

帝王切開後に原因不明の難治性子宮弛緩が認められた症例において、子宮体部だけでなく、峡部にもアナフィラキシー様反応と炎症が存在することを、初めて組織学的に明らかにしたことを審査委員会は高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 岩下 寿秀

副査 鈴木 哲朗

副査 藤澤 泰子